

平成 30 年度 鑑石園デイサービスセンター

事業報告書

1. 事業運営の概況

地域密着型デイサービスセンターとして、地域との連携の強化を心掛けた。個々の利用者様の身体状況及び生活環境に応じたサービス提供を基本として、残存機能の活性化を図り重度化を防ぐことで、在宅での生活が送れるよう支援を行った。

稼働率については、新規利用者の獲得はできず、一人ひとりの利用回数が多く、平均利用率は 60.0%となり、前年度比 1.7%のプラスとなった。

2. 事業計画実施状況

(1) 職員の資質向上の為の方策

① 資格取得の推奨

習得者はいなかった。

② 職員教育と研修

内部研修を充実させ知識を高めたが、外部への参加が少なかった。

平成 30 年度に行った内部研修については、次の通り。

	研修内容
4 月	接遇
5 月	食中毒
6 月	外部研修報告(レクリエーション・認知症ケア)
7 月	熱中症対策
8 月	虐待
9 月	自己評価
10 月	皮膚疾患
11 月	高次機能障害
12 月	疥癬
1 月	事故事例
2 月	スピーチロック
3 月	30 年度の反省

③ チームケアの確立

一人の利用者様に対し、全ての職員が共通の認識に基づき接することが

できるよう、職員同士の意思疎通を図り、チームで支え合うという基本方針を確立するための環境作りに努めた。

(2) 地域と連携を強化させるための方策

① 地域行事への参加

近隣のお祭りに出かけ、利用者様にも大変喜んでいただくことができた。職員サイドで協力できるものについても可能な限り参加し、地域の方々との交流を深めた。

② 地域への積極的な情報発信

支援センターや他の在宅サービスの職員と協力して、民協や地区の集会への積極的な参加、パンフレットや季刊誌を配布する等、積極的に情報を発信した。

③ ボランティアの充実

読み聞かせや踊りのボランティアを積極的に受け入れ、交流を図った。また、近隣保育園の園児による歌と遊戯は利用者様に大変好評で、喜んで頂けた。

④ 運営推進会議の開催

地域の方やご家族に活動状況を報告し、必要な要望や助言を聴く機会を設け、地域との連携や運営の透明化に努めた。

(3) 個別ケアの充実とリスク管理を徹底させるための方策

① 個別機能訓練の強化と向上

ケアプランを基に、ご家族の希望に沿った内容の個別機能訓練計画書を作成し、介護職員も協力して機能訓練を行った。

訓練内容については、家庭では行う事が難しい運動等もできるだけ取り入れて、身体能力の維持、向上に役立てるよう工夫した。

また、外気に触れ、景色を楽しんで頂くことを目的として、屋外歩行訓練を積極的に行ったところ、意欲の向上が見られ、楽しい雰囲気の中で行う事が出来た。

② 個別対応の拡大

個々の利用者様について、ケアプランを基に、介護支援専門員と連携し、利用者様、ご家族のニーズを把握した上で、柔軟に対応した通所介護計画を作成した。

サービス提供に際しては、通所介護計画に基づき、個別対応を心掛けた。

③ リスクマネジメント意識の向上

ヒヤリハットをその場で報告することで、事故を未然に防ぐことができた。

また、危険箇所や動作、事故につながる可能性のあるものについては、ミーティング時や朝礼時において、その都度改善策・対応方法についての検討を行い、改善に努めた。